

幡多ゼミ OB の橋崎律子と申します。旧姓は山本です。

私は、幡多ゼミの「自主的なサークル」「他の高校との交流がある」というところに魅力を感じ、高校 2 年生から幡多ゼミの活動に参加するようになりました。

入ったころはちょうど、映画の撮影をいつやるとかの話をしている、ビキニ調査、平和の旅、ビキニの合唱構成詩などの活動について話をしていました。先生と生徒が友達みたいに、対等に話をしている姿が新鮮でしたし、自分の思ったことを気兼ねなく言え、それを同じ高校生、先生たちが受け止めてくれたので、安心したし、楽しかったです。

1 年のころは地味でしたが、ゼミの活動を始めてからは、わりと積極的に意見を言うようになり、それば、生徒会顧問の先生の目に留まり、生徒会長をやらなかとスカウトされ、生徒会長に立候補し、生徒会長を務めました。学校には、ゼミの活動をしにいくようなものでした。

生徒会活動、ゼミ活動など、自分の思うことをやっていろんな全国集会にも参加して、友達もできて、充実した高校生活を過ごせました。勉強も、特に社会の勉強が、これはどういうことか？など、考えるようになりました。例えば、ゼミの活動の中で知った、ビキニ環礁などでの核実験による被災というのは、“戦争の準備の段階でも、戦争にまつわる被害がでる”ということに気づき、ハッとしたことを、今でも覚えています。

ビキニ調査では、土佐清水市にいったとき、住吉丸を見学しました。

「**理化学研究所**」の先生が来られていて、ガイガーカウンターが「ガガガッ」と、音を立て、みんなで放射能だ！と話したこともありました。

沖縄の平和の旅では、上岡先生があらかじめ、「ビキニ水暴実験のきのこ雲をみたという漁船員の方に遭遇するのは、なかなか難しいかもしれない」ということでしたが、2 人目ぐらいで、「みたよ」というおんちゃんに当たったので、とても、びっくりしたことを覚えています。

社会について広く学びたいと思うようになり、

大学は、社会学を学びたいと、愛媛大学法文学部夜間主コースで社会学を専攻し、学びました。高校の地理歴史科の教員免許を取りましたが、なんだかんだとありまして、今、ここにこうしています。

仕事は、中村民主商工会の事務局長をしています。民商とは、商工業者の集まりです。

中小業者の地位向上を目指して運動をしています。

私と一緒に働いている事務局員の山本さだおさん（70）から、近所にビキニ水爆実験のとき、マグロ船に乗っていた浪岡さんという方がいるということを知りました。浪岡さんに話を聞いてお

かないといかなあいかんなあとと思いました。山下先生に浪岡さんのことを言うと、山下先生は浪岡さんのことを知っていて、DVD に出てくる除本さんを山下先生に紹介したのが、浪岡さんだったそうです。それで浪岡さんに、高校時代のように、ビキニ被災の当時の漁船の様子などを、論オンにしながら聞き取りをしたことでした。ちょうどそのころ、2017 年 7 月の国連で、核兵器禁止条約の第 6 条に、戦争行為だけでなく、準備や核実験による被害も含まれるということが、採択されました。中村民商も加盟する全商連というところが発行している商工新聞の記者が、私が幡多ゼミをしていたことを知っていて、記事を書くように頼まれました。私は浪岡さんのことを記事にまとめ、掲載されました。掲載された記事を見て浪岡さんも奥さんも、喜んでくれました。そして、この 2 週間後、浪岡さんは亡くなりました。「浪岡さんには、歯を提供してくれた被ばく者を紹介してくれるなど、いろいろ協力してくれた。最後にこうして（新聞の記事にできて）、浪岡さんのことが形にできてよかった。」と、山下先生がおっしゃっていました。このように、ゼミで得たことは、今の仕事にもつながっています。

2022.11.17.橋崎